

9月 つどい Walker

発行:第 39 回医学生をつどい事務局

今年度初のつどい

東北医科薬科大学医学部 3 年の和田尊行です。私のいる宮城県では日が暮れる時間がすっかり早まり、肌寒い空気が本格的な秋の訪れを知らせています。

さて、2018 年 9 月 29 日・30 日の二日間に渡り、長野県は千曲市、ホテル圓山荘にて、「第 39 回民医連の医療と研修を考える医学生をつどい」の記念すべき第一回目が開かれました。39 つどいの年間テーマである「すべてのいのちが大切にされる社会」に沿って、今回は「子どもの貧困」をテーマに二日間学習しました。

特に見えづらい子どもの貧困について、どうしたら見えるようになるか、医療者として何ができるのか、なぜ子どもの貧困について学ぶのかなど、大学ではあまり学ぶことのない社会的な視点を学ぶ機会が得られました。



一日目講師:和田浩医師

9 月 つどい テーマは「子どもの貧困」

1 日目の学習企画では、長野県健和会病院院長である和田浩医師をお招きし、子どもの貧困ワークショップを行いました。和田先生に子どもの貧困に関する事例を提示して頂いたり、子どもの貧困の基礎知識を講演して頂いたりした後に、班ごとにディスカッションを行いました。医療現場において貧困は見えづらいこと、いろいろな困難が複合していること、多職種連携の重要性などを学びました。

今回は一人ひとりが数枚の付箋に意見を記入し、同様の内容の付箋をグループに分け、そのグループごとにディスカッションをする KJ 法という方法で議論を進めました。いつもの学習の進め方とは少し気色が異なっていたので、初参加以外の方も新鮮な気持ちで取り組めたのではないのでしょうか。

参加できなかった方は、ぜひ各都道府県の奨学生会議等で参加者とともにミニワークショップを行ってみてください。参加した方の復習にもなると思います。



交流会

夕食は信州の味覚をふんだんに味わうことができ、特にもぎたて椎茸の網焼きはインパクト大で、皆さんインスタ映えを狙って写真に収めていたことと思います。

そして私、非常に残念なことに 9 月 30 日は大学の用事があったために、夜の交流会には参加せずに泣く泣く帰りました。参加された方々はテーマ別、学年別、自由交流会のそれぞれで、縦と横の親交を深められたことと思います。



2 日 目

講演：「すべてのいのちが大切にされる社会」

2日目の報告をさせていただきます、高知大学4年の三野です。

よろしくお願いします！

2日目は「すべての人が大切にされる社会」と題して児玉典子さんにご講演いただきました

最初に、反貧困セーフティーネット・アルプスの地域での活動として「きずな村」や「無料こどもじゅく」の紹介をしていただきました。「こどもじゅく」とひらがなで称しているのは、その方が子どもたちになじみやすいだろうという参加したボランティアの学生のアイデアだという事でした。ただ支援をするだけでなく、支援を受ける側の立場に寄り添うことを意識されているのだと感じました。

講師：児玉 典子氏

活動における組織単位での協力関係が必要だということもおっしゃっていました。民医連病院の健康生活相談をはじめ、そのほか行政や民間機関、支援団体との関わりも深めていく必要性を強調されていました。

ご講演の話は子どもの権利条約までおよび、日本はそれを批准しているにも関わらず、到達度や意識が低いと危惧されていました。子どもの支援を行ううえでも、世界に目を向けつつ自分たちの到達目標を決定しなければならないと感じました。

事例を通して、子どもの貧困を考える

次に児玉さんが経験された事例を通して医師として、子どもの貧困に立ち向かうことについてお話しいただきました。支援が必要な家庭をきちんとした支援を受けられるまで寄り添う、家庭の不安に耳を傾ける、もともと持っている権利を声を大にして行政に主張する、そして自分たちの実践を発信する、などのポイントを示していただきました。児玉さんがおっしゃっていたこれらのことは「医師として」だけでなく、支援を行う一個人としてまで落とし込めることだと思いました。

最後にまとめとして、「子どもの貧困・声を置き去りにしない」「すべてのいのちが大切にされる社会のために人権を拡充する歩みをとめない」とのメッセージをいただきました。



！ 次回 12 月 つどい ！

12/22 (土) -23 (日)

滋賀県 琵琶湖グランドホテル

12 月



お待ちしております！